

感動一点の場

『森の入り口の白い樹』
1988年 小川原 脩 画

白い樹皮の木が2本、画面の左右にどっしりと構えた様子はあたかも「門」です。その間に1羽の鳥が羽ばたいています。黄色いくちばしにふくよかな体の鳥は、大きく尾羽根を広げ着地しようとしているのでしょうか。橙色から赤茶へと濃くなる色彩が、その奥に広がる空間の深さ、濃密さを彷彿とさせます。

この頃、小川原脩は1986年にインド・ウツタルプラデシュを旅した際に取材した風物を繰り返し描いていました。作品に登場するものはインドの豊かな農作物をたっぷり詰め込んだ麻袋、素焼きのつぼ、平たい家屋の街並み、そして羽ばたく鳥。さまざまに組み合わせが試され、多くの作品が生み出されました。

88年、30周年を迎えた麓彩会にもそのような作品を出品しています。その中に、本作も含まれていました。この作品にはインドの風物は現れていませんが、同じように羽ばたく鳥の姿が共通しています。旅先で印象を得た鳥のモチーフと葉を落とした白い樹が織りなす、倶知安の冬のはじまりを叙情的にうたった一点となっています。

文：沼田 絵美（小川原脩記念美術館 副館長）



ふる探訪

本州からやってきたツチガエル

486回

森を歩くと、思いがけない出会いがあります。町内のある公園の水辺を歩いていると、飛び跳ねるカエルが視界に入りました。見かけることの多いアカガエルかと思いきやどこか違和感があります。急いで捕まえて見てみると、褐色の背中には多数のイボがあり、体長は50mmほどあります。それは本来、倶知安にはいないはずのカエル、ツチガエルだったのです。

ツチガエルはそもそも北海道に生息しておらず、かつて本州からコイを運んできた際に紛れ込んで定着したと考えられています。現在では札幌市や江別市といった道央圏を中心に、旭川市、遠軽町、せたな町、七飯町など道内の各地で確認されています。倶知安にはどのようにやってきたのでしょうか……。

外来カエルの侵入は、在来カエルのエサ資源を減らしたり、感染症などの病気を媒介したりといった危険性があります。まずは、ツチガエルが町内にどの程度分布しているのかを調べる必要があります。

昨今の大きな気候変動の中で、生き物たちの様相も変化してきています。その変化にいち早く気付き、記録や対策を取るためにも、身近な自然をつぶさに観察していきたいものです。

文：小田桐 亮（倶知安風土館 学芸員）



▲ツチガエル

展覧会のお知らせ

■第1展示室

第65回麓彩会展

1958年、小川原脩をはじめとする8人の発起人により創設された「麓彩会」。今年で65回目を迎えます。地域に根差した創作活動を展開する作家たちの近作を通じて、この地域の多彩な美術を紹介します。

会期：10月7日(土)～令和6年1月14日(日)

■第2展示室

小川原脩展「小川原脩と麓彩会」

小川原脩は麓彩会を「地方文化の苗床」として位置付け、自身の重要な作品発表の場としていました。麓彩会展出品作を中心に画業をたどる展覧会。

会期：10月7日(土)～令和6年2月12日(月・祝)

アート・イベントのお知らせ

■アーティスト・トーク

麓彩会展オープニングイベント&アーティスト・トーク

第65回麓彩会展のオープニングセレモニーの後、展覧会場にて出品作家の皆さんに作品について伺います。

日時：10月7日(土)10時～10時45分

会場：第1展示室（無料）

美術館・風土館 コラボイベントのお知らせ

■共同ワークショップ

「秋の葉っぱでアート作品を作ろう」

紅葉が美しい美術館と風土館の前庭を散策し、取ってきた葉っぱを観察して楽しい工作をします。

日時：10月14日(土)10時～12時

会場：倶知安風土館体験学習室（無料）

講師：小田桐亮（学芸員）、金澤逸子（学芸スタッフ）

定員：15名※小学2年生以下は保護者同伴

申込：電話にて受付（美術館☎21-4141）



▲ 前回の前庭散策の様子



◀ アート作品の例

ミュージアム 通信

小川原脩記念美術館 ☎21-4141

観覧料：一般 500円(400円)

高校生 300円(200円)

小中学生 100円(50円)

倶知安風土館 ☎22-6631

観覧料：一般 200円(100円)

高校生以下、美術館観覧者無料

開館時間は9時～17時

入館は16時30分まで

※（ ）内は10名以上の団体料金

10月の休館日 毎週火曜日、

美術館のみ6日まで(展示替え)

7日は展覧会初日のため無料

あしたあさってしあさって

記録的な猛暑となった今夏。それでも過ごしやすいく秋が近づくにつれ、文化的な催しも増えていきます。

そんな折、文化福祉センターの大ホールでは町文化協会との共催で、表題の児童向け創作劇を開催しました。東京都から来られた「劇団野ばら」さんによる演劇です。

主人公は、小学4年生の乱暴で自分勝手な男の子。友達の弟とゲーム機を巡ってけんかをした弾みに、自身がゲーム機の中に入り込み、現実世界で乱暴をした相手と冒険を通じて向き合っていく、といった内容。

当日は天候があまり良くなかったり、近隣のイベントと重なったりして、大入りとはなりませんでした。来てくれた子どもたちは最後まで食い入るように観てくれました。

コロナ禍で初めての観劇となった子どもも居たことでしょう。できればまたこのような機会を設けられたら、と思いました。

ふくはら ひでかず
館長 福原秀和